

上位標目:[第九期新生アルカ概説](#)

比較:[音節_na14 アクセント_na14](#)

[音節・アクセント](#)2008/10/01 (水) 10:58:46のコピー

音節の種類は多い。最小はV。長いものでC C V C Cがある。

例

a (~ へ)

prest (縁起が悪い)

最も多いのはC V C、C V C Cである。

英語と違って語頭の子音連続はあまり好まない。

また、英語よりも単純に音節を捉える傾向がある。

C V C Cでも実際はC Cの間にシュワーを入れたり、C Cの後にシュワーを入れたりして、2音節に分けて発音されることが多い。

例えばfonl は/fon lq/ と発音される。(qはシュワー)

歌詞をつけるときに、fonl は音符1つで表されることもあるし、2つで表されることもある。

それはシュワーを入れて2音節として捉えるか否かの違いによるものである。

アクセントはない。無アクセント言語である。

古アルカは自由アクセント、制アルカは拘束アクセントであった。制アルカは動詞だけ後ろが高かった。

新生アルカはアクセントがないものの、一般に最初の音節が高く強い。また、機能語は低く弱めに発音される。

拘束アクセントでなくなったおかげで、ユンク位相など、さまざまな位相を表現しやすくなった。

上位標目:[第九期新生アルカ概説](#)

比較:[音節_na14 アクセント_na14](#)